

【日本側コーディネーター及び拠点機関名】

日本側拠点機関名	早稲田大学イスラーム地域研究機構
日本側コーディネーター所属・氏名	早稲田大学 人間科学学術院 教授/イスラーム地域研究機構 研究員・店田廣文
研究交流課題名	多文化環境下における価値の交渉- イスラームとの共生に向けた発展的研究
相手国及び拠点機関名	マレーシア、マラヤ大学、アジア・ヨーロッパ学術院 Asia- Europe Institute, University of Malaya, Malaysia ニューヨーク大学アブダビ校 New York University Abu Dhabi, United Arab Emirates

研究交流計画の目標・概要

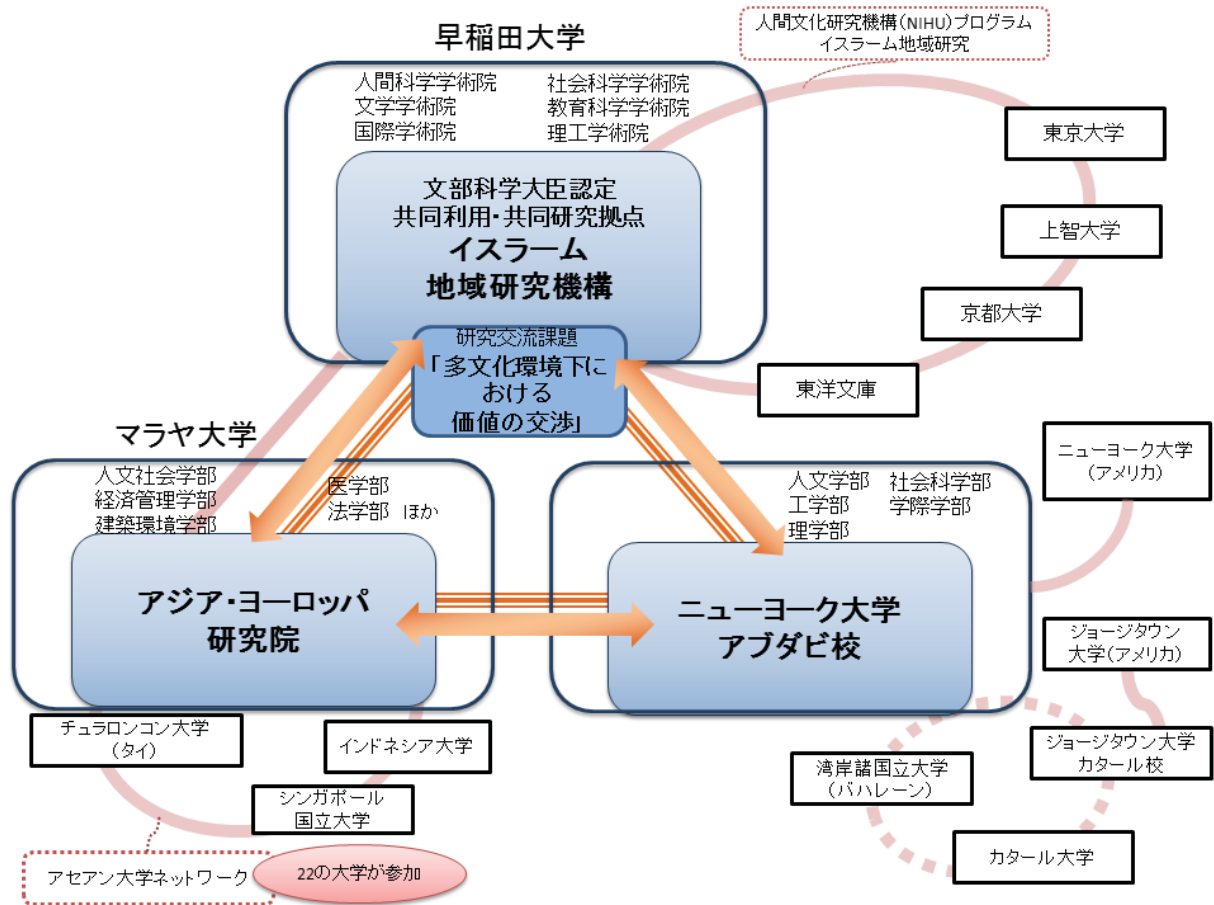
【研究交流目標】 交流期間（最長3年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。

1. 「イスラームと多元文化主義」を基盤とした多文化研究の環境整備：3年間のアジア・アフリカ学術形成基盤事業を通し、マレーシアの多元文化主義からイスラームとの共生を考察した結果、イデオロギーとしての多文化主義の限界、多文化環境下に培われた共存の知恵という相反する側面が明らかとなった。これを基盤に、歴史的にイスラームを含む多文化環境を継続する東南アジア、20世紀末からオイルマネーによりイスラームの環境の中に外国人が加わり多文化環境に突入した湾岸、今後より多くのムスリムを迎え多文化環境が加速する東アジアという3つの多文化環境を射程として、研究環境の整備を行う。
2. イスラームに見るグローバリゼーション：ハラール（イスラームの行動規範）、国際移動、多国間対話の研究グループを組織し、イスラームにおけるグローバリゼーションを明らかにする。ハラールは、産業を巻き込み、教義や化学分析による規格化が進む中、多様な基準が成立しつつある。国際移動は、国境を越えた人の移動が加速する中で、マイノリティとしての文化や独自の価値がマジョリティの中に消失しつつある。多国間対話は、国際的連携が試行されているが、主権国家によるパワーポリティクスから踏み出せない。上記3地域の異なる多文化環境下にみられるグローバリゼーションと標準化の推移を検討する。
3. 価値交渉モデル：早稲田大学イスラーム地域研究機構は、文部科学大臣認定による共同利用共同研究拠点（イスラーム地域研究拠点）として、日本におけるイスラーム地域研究の中心として、「イスラームとの共生」を模索してきた。その結果、ムスリムと共生するための仮説として、1. 価値判断における曖昧性の担保、2. 価値観の多元化、3. 寛容性に基づいたお互いの容認を提起したい。本事業による3年間の共同研究を通してこれらの仮説を実証的に検証し、3つの仮説に基づいて、異文化間の価値観の交渉をモデル化した価値交渉モデルを提案し、イスラームとの共生に向けた発展的研究を遂行することが最終目標である。

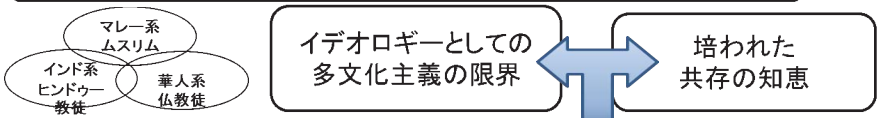
【研究交流計画の概要】 ①共同研究、②セミナー、③研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。

- ①共同研究 上記3地域の相異なる多文化環境を分析するため、マラヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院、ニューヨーク大学アブダビ校、早稲田大学イスラーム地域研究機構を拠点とする。多文化が共存する環境においてイスラームをとらえるための切り口として、ハラール、国際移動、多国間対話という3つのテーマを設定する。それぞれの拠点から研究者を集い、3つの研究グループを編成する。3つのグループがそれぞれ東南アジア、湾岸、東アジアを横断する形で共同研究を行う。共同研究においては、大学院生等若手研究者の参加を推進するように努め、彼らの参加するワークショップを開催する。
- ②セミナー 平成26年度にはマラヤ大学、平成27年度にはニューヨーク大学アブダビ校、平成28年度には早稲田大学において国際セミナーを開催する。それぞれの年のテーマは、「イスラームと多元文化主義」を基盤とした多文化研究の環境整備（平成26年度）、イスラームに見るグローバリゼーション（平成27年度）、価値交渉モデルにおけるイスラーム（平成28年度）とする。各年に、ハラール、国際移動、多国間対話という共同研究グループごとのセッションを設け、共同研究の成果を発表する機会とする。また、セミナー開催時には、マレーシア、アラブ首長国連邦、日本以外からも研究者を招聘し、国際的なセミナーとする。セミナーには、若手研究者の発表、参加を奨励する。
- ③研究者交流 緊密な関係性を構築し、共同研究を速やかに実施するために、本事業の中心である早稲田大学イスラーム地域研究機構において、年度の始めに中核研究者による研究者交流を実施する。全体の計画に加え、ハラール、国際移動、多国間対話の共同研究グループごとに話し合う機会を設け、共同研究の一助とする。また、各年度後半のセミナー開催前に、打ち合わせを行う。

[実施体制概念図]



イスラムと多元文化主義(平成23-25年度)



多文化環境下における価値の交渉(平成26-28年度)

